臭いが辛抱して
便所で活躍する落書帳

「らくがき運動」は近江絹糸からはじまつたのだそうです。本紙にも前号でこの運動を紹介しましたが、いま三鉱労組では三川と港務支部がはじめています。

例えば三川支部では、まず坑外便所に備えつけてみました。最初は期待するほどの成果はあがらないだろうが、徐々にでもこれが有効に利用されて大きな成果を生むのを教宣部では期待していますし、将来は現場の控室に備えつける計画も立てています。

職場の片隅から一人一人の悩みや苦しみや怒りがこの落書帳にのつて集り、それが大きな力となつて問題を解決の方へ導くこともできるのです。

三川支部ではまだはじめたばかりですが、この中にかかれているものの中から二、三拾つてみました

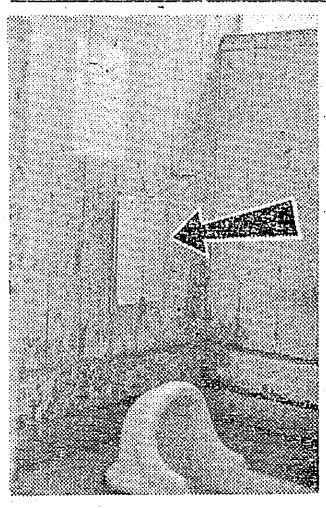
○坑外の給料を各事業所なみに上げろ

○坑内に下つて一万円で四人家族じや全くすくないぞ、身体は細るばかりだ、どうにかならんかね——

○常一番や自分の主人がいないときは女ばかり寄つて高々に話したり、ラジオナラシタリー、二三番方も寝られない日が多い。自分のオヤヂが寝ているときはダマつて、ひつそりかんたい。近所も他所のも自分のおやぢ(主人)と思つてくれ。

○便所の「ノツク」のしかたもいろいろある。「トントン」とノツクして返答する時間も与えないで引手をガチヤン!

○保安愈安会は事故の元



矢印が便所内の落書帳

○職員と鉱員のボーナスの開きが大きすぎる。

○落書帳は坑外各所の便所にも取付けられたい。坑内を主体としたような……いや主体ではあろうが考え方が偏重している、その点今少し反省してほしい。

○折角落書帳をつくつてあるのに誰のしわざか判らぬが鉛筆も用紙もち切つて板ばかりになつているのがある。自分たちが出した組合費の一部でもあるのだ。お互いに考えて行動しよう。

○執行部員はもう少し応待をていねいにしろ、いそがしいのはわかつている。

などいろんな面にわたり書かれています。

この帳面が素朴な組合員の声を組合へ橋渡しする役目がつとまるように、みんなで可愛がりましよう

父と焼酎

三川 菅 信子

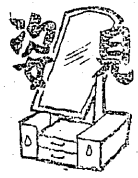
「お父さんそんな真似しなさんな」「真似じやなか」「ウン……でも止めんね」私は顔が青く引きしまるのを感じながら云つた。父は鏡の中でチヨツト笑つたが、すぐに眉に立皺を寄せ襟の胸を押えたり、張つたりしている。「病院に行つてみたら」「ナーニ大したことはなか」自信のない声で立ち上つた。

七年程前になるお隣のKさんもやはりけい肺で亡くなられた。「菅さん早く来て下さい、父ちやんが……」父はかけ出た。私達はギクツとして立ち上つたが、奥さんが叫ぶ「父ちやーん」の悲しい余韻におびえ姉妹だき合つて座りこんだ。「父ちやーん」社宅の夜空を走しるかけまわるだけだつた。

それから、まさかと思つていた元気な父えのけい肺診断である。「医者が驚いているよ」けい肺のまま六年間、いや今も坑内労働をしている父は自慢気に云うが最近は目立つて弱くなり、ようとう好きな酒、と云うより、少い収入ではそれを買えず、ヤミ焼酎をたのしんでいたのですが「どうも体がよくない」と止めてしまいました。

「せめて末つ子が義務教育を終るまでは生きとかにや、後六年はな」「俺達組合も強くなるし、だんだん世の中も住みよくなるというのに……」とさびしく笑つています。

つい最近、三川で三名、四山で一名の死者を出し、数的には減つたとはいうもののあとを絶たぬ重軽傷者、けい肺患者。〃保安〃こそ私達の手にしつかりと握るべきものではないでしようか。



港務で敬老會
九十二才が最高令者

港務支部主婦会では十月二十一日(日曜日)午前九時から港務所ステージで秋の佳き日に敬老会を催した。

今回はいままで各分会でばらばらにやつていたのを支部一本にまとめて行われたもので、現在支部で七十才以上の老人二百四十名、この日出席された人百五十七名だつた。

最高令者は元治元年生れ九十二才の松尾キヨさん(九十二)だつたこのほか夫婦揃つての高令者では小柳久太郎さん(七十二)夫婦、石川岩太郎さん(七十三)一組、瀬戸口竜太郎さん(七十八)という珍らしい三組の夫婦ずれもありみんなから祝福されて大喜びだつた。

主婦会では出席者に記念品や中食祝の饅頭の接待などを行い、また各分会毎に社宅、外来を問はず踊りや劇を披露して老人たちに大いに喜ばれ感謝されるなど一日和やかなふん囲気のうちに敬老会が行われた。

なおこれに歌う会も一役買い、老人にわかりやすい歌を歌つて敬老会に色彩を添える一コマもあつた

三作文化祭開く
他支部に先がけ公演

文化活動のトップを切つて活躍する三作支部では文化の秋にふさわしく十月二十四日午後五時から市民会館で一九五六年度文化祭を公演して職場文化の披露を行つた。合唱演劇サークルのコーラスを皮切りに、古典文化の謡曲と民八鑑賞会、執行部、委員による爆笑劇「ミステイク」、職場浪曲座長口演、楽団演奏による歌謡曲、合唱サークルのコーラス劇など職場文化の粋を集めた演しものに市民会館一杯につめかけた組合員、家族にヤンヤの拍手をうけた。

なおこの文化祭を観覧した三川支部の坂口次男氏はつぎのような感想記を寄せている。

文化祭を観て

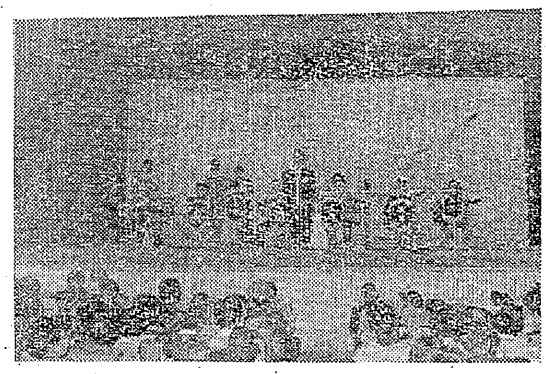
私はさほど文化、演芸に対して造詣の深いものではない。むしろ普通以下と思つている。三作支部の仲間達が文化祭をやると云うのでうどん三杯をすゝり込んで市民館に入場した。

思つたよりも家族、組合員の少ないのには一寸心配した。いろいろの演芸を見て特に、印象に残つたのは浪節と執行部、委員の爆笑劇、日はららのコーラス劇だつた。現在浪曲はとに角その封建的内容、それ自身の衰調、特に労働者階級としての新しい文化のあり方の面から、特にインテリーは顔をしかめるが、内容は別として何かほのぼのとした、出演者と観衆との結合が見られたのは「勿論職場々々の対抗意識もあつたろうが」どういうわけか、仲間をひいきする気持を真の階級的同志愛に高める事は一つのステツプになりはしないだろうか。

次に執行部の爆笑劇はあまりにも爆笑すぎた感を卒直に申上げたい。もつと明朗すると下品すぎた?笑いの中にも、指導部としての立場から何者かを大衆につかませる意欲、これこそあらゆる時と場所を選ばず考へなければならないのではないか。労働者の文化祭は単なる祭りではない。なるほど挨拶はそうであつたが

次に「日はららム」については演劇とコーラスの結びつきが自分達の手で始めて出来た事を誇られていたが、実際の舞台は離れていた感がする。専門的な立場から無理してやるよりもつと卒直に各々生かして行つた方がよくはないかという感もした。ともあれ三作の文化活動はこのコーラスの活動が中心になつている事は内外共に認められるだろう。総て低い段階から高き段階に進む、コーラスを中心にここまで高められた事に対しては敬意を表せずにはいられない。ただ心配なのは荒木さんが云つておられる様に頭ぶれが変らないのは相互に考へねばならない事だろう。問題は、コーラスにしろ演劇にしろ現実の苦しみを逃避する場所であつてはならない。

新しい歴史を創造する力を自ら感じ、人に与えてこそ我々の文化活動の意義があるのではなかろうか。その点「日はららら」にしても専門家を真似て技術的になまくなるより自ら新しいものを創出す方向に経験と精力を集中して頂きたい。他支部に先がけて文化祭を開催された行動力は大いに評価されねばならないし、又来年の文化祭を期待してペンを止めます。



写真は文化祭の一場面歌謡曲の部

親善ソフトボール大会

荒地評では四山、国鉄、市職、第一紡績、金通、教組、電通、自労の八産組の組合せによる親善ソフトボール大会を企画、去る十月二十八日、午前九時から万田グラウンドで開催した。

この日第一試合が完全に終了しないうちに雨のため中止になり試合が後日に延期されたが、地評主催のレクレーションははじめての催しであり、その成果が期待されている。

家族同伴で慰安旅行

三川支部三十七分会(倉庫)では職場の親睦と団結を目的として例年慰安旅行を実施しているが、今年は分会員ばかりでなく家族もともに楽しもうと、家族同伴で目田—杖立—阿蘇—熊本経由で十月二十七、八日の両日、慰安旅行を行大はしやぎである。

また地域分会でもこのグラウンドで来る十一月四日に組合結成十周年記念行事の一つとして地域運動会を開く計画をたてており、地域の人たちは子供も老人も主婦も組合員もいまからその日を指折り数えてまつているということである

(西原発)

西原に運動場
「みいけ」の投書実る

かねて熱願中であつた西原地域の運動場は「みいけ」紙上にも児童たちの切なる願いが掲載されたがさる十四日(日曜)午前八時半から地域役員総出で同地アパート横広場の整地作業や草取りに発展した。

この勤労奉仕によつて同空地はみちがえるばかりの立派なグラウンドができ、いままで遊び場をもたなかつた子供たちはうれしそうに早速グローブ片手に野球の練習につつしやつたので、あゝこの人もまた駄目だ、どうせ組合幹部のやること、大勢の前で大見栄を切るようなことばやりがいのあることだが、ごく少数の個人のことなどしたつてつまらぬこと…と私は内心実はあてにしていませんでした。

(中略)ところが早速高田厚生部長が寸暇をさいて来て頂きいろいろと力づけて下さいました。心なしか患者さん方明るくなられたようでした。そして厚生車もいただけるようになり、それはそれは、みな子供のように喜んで動作まで活発に運動が出来るので食事もすすみ大変結構なことと一同喜んでおります。(後略)

以上のような手紙だが、これは外傷性脊髄で天領本院に入院の患者さんらの切なる要求であつた厚生車などが手に入つたからだつた。厚生部としてはけい肺談会後直ちに会社と交渉しつぎのような事項を決定している。

❶厚生車手動を原動機に改造、この金額については会社貸付け。

❷この原動機厚生車の格納庫は配膳室を改造してこれにあてる。

などだが、このほかにも入院患者の苦情についてもその都度会社と交渉して期待にそうよう努力している。

厚生車に喜び
投書の患者さん

組合に主婦から礼状

脊髄患者を主人に持つ一主婦会員から十一月四日組合長あてに喜びを訴えたつぎのようなお礼の手紙が届けられた。

……この度は去るけい肺談会の席の折お願い致しておきました脊髄患者の書分を早速実行にうつして頂きましたこと大へん嬉しく存じ上げ厚くお礼申し上げます。あの席上「脊髄の方は大変数が少ないですもんね」と口頭一番におつた。

秋風ふく阿蘇の大平原で毎日の労苦を忘れ、高らかに労働歌を歌いこんどの闘いの勝利を誓うなど有意義な行楽を行い、この旅行を通じて同分会の融和がさらに緊密なものとなつた。

旅行は代表の中川さんらの努力と会員の協力で和やかなうちに終了したが、同分会のこんどの職場明朗化と前進とがますます期待されている。

文芸募集締切迫る
素人大いに歓迎

△創作 四百字詰十枚以内、選者=野間宏、賞金入選一席一千円、二席七百円、三席五百円

△詩 一人一篇、選者野間宏、賞金入選一席五百円、二席三百円、三席二百円

△短歌 (題=音)一人二首、選者=岩本宗二郎 賞金天三百円、地二百円、人百円

△俳句 (題=初日)一人二句、選者=吉岡禪寺洞 賞金右同

△川柳 (題=餅、とそ)一人二句、選者=速水晋二郎 賞金右同

△兒童綴方 (題=時計)編集部選、四百字詰二枚以内、賞品

△感想文 (題=政党と組合運動、題自由)編集部選 四百字四枚、賞金一位五百円、二位三百円、三位二百円。主婦は素晴、四百字一枚

△寫眞 (題自由)大きさキャビネ、一位五百円、二位四百円、三位三百円、その他各種佳作にも謝進呈

※締切 十一月三十日

※宛先 三鉱労組本部「みいけ」編集部及び各支部教宣部